

# 介護老人保健施設オアシス 21

**症 例 概 要**      利用者:90代 要介護3 B2-Ⅲa

病名:脳出血(右) 脳血管性認知症(アルツハイマー型合併) 両変形膝関節症  
脳梗塞 高血圧症 高脂血症

利用期間:平成27年10月

経過:ご本人からご家族へ対しての暴言があり、レスパイト目的で短期入所。入所中に顔面神経マヒを発症し長期の入所に切り替えとなりました。入所当時は要介護4でADLは全般に介助が必要な状態。在宅復帰を目標にリハビリを進める中で転倒を繰り返し、主介助者の娘さんに対し暴言を吐くなどご家族の不安が強く調整が出来ずに4年が経過していました。リハビリ訓練や生活リハビリを続ける中、自力で出来る事も増え、介護度は4から3に改善。ご本人から「帰りたい」意向が聞かれ再度在宅復帰に挑戦。ご家族からは「自信がない。特養に申し込むので待機させてもらえないか」と相談されましたが半年間かけてご家族に安心できる材料をそろえ、令和2年1月に在宅復帰が実現した症例。

## 内 容

---

リハビリ、看護、介護、栄養科、相談員、歯科の多職種で目標を設定してきました。

【介護職員】は日常のケアで、排泄は全介助から衣類の上げ下げのみの軽介助になり、ナースコールの使用が可能になり、安全な移行動作を獲得しトイレ内で転倒リスクが軽減。ご家族に対してもトイレ介助の方法を教えました。

【栄養士・ST】は食事場面では、ご本人が食事を手づかみしたり、食べこぼしが多く、ムセもあるため、トロミ剤を使用し、自宅の食器と同じもので食べられるように訓練。嚥下状態も改善し、禁止だった麺類も食べられるようになりました。

【PT】の介入では、立ち上がり困難だったところが、生活動作は見守りや軽介助レベルまで改善。

【ST】介入では、言葉が出にくいことによるコミュニケーションでのストレスについては言い直す事で日常生活の中での問題は無くなりました。

【医師・看護師】の介入では、内服薬の調整にて血圧など全身状態は安定。歯茎の痛みの訴えに【歯科】と連携し自力で歯間ブラシを使用できるよう指導したところ、はじめは1時間かかっていた歯磨きが退所時は15分程度で自力で行うことができるようになりました。

ご本人はナースコールが使用できるようになり、車椅子も自操可能になった事で、笑顔が増え、感謝祭恒例の笑顔フォトコンテストで優勝することもできました。

【相談員とケアマネ】はこれまでの経過を丁寧にご家族に説明し、在宅復帰後もご家族が負担に思わないようサービスの調整を行い在宅復帰が実現。（退所後、一緒に住んでいる孫がインフルエンザにかかった際 ご家族のSOSに応え、オアシスは満床でしたがオーバーベッドで短期入所を受け入れ、ご家族から感謝されました。）

今回は4年ぶりに自宅に帰り、オアシスの通所リハや短期入所を利用しながらご家族やペット達とにぎやかに在宅生活を続けています。